

兵庫県円山川流域における大平肺吸虫

山西 浩

神戸学院女子短期大学

兵庫県北部、円山川流域では50数年前に吉田(1955)、宮本(1961)によって大平肺吸虫の疫学調査が行われている。本調査を行った中州菊屋島は円山川河口に近い中州で、大平肺吸虫の第二中間宿主のクロベンケイガニ *Seasarma dehaani* が高密度に生息している。クロベンケイガニの大平肺吸虫メタセルカリア(MC)寄生率は2002年4月 84.9% 5月 68.8% 7月 61.5~67.4% 8月 78.0~95.6% 9月 92.0~93.3% 11月 100%であった。平均寄生率は78.6%と高かった。2003年もほぼ同様の傾向で、平均寄生率87.0%であった。1個体のカニに1~10個体のMCが寄生しているカニは7月55%、8月60%であったが、9月には30%で多数MCが寄生しているカニが多かった。またMC密度をみると9月上旬に高くなる傾向がみられた。この密度の変化から7月上旬にセルカリア寄生活動が盛んであることが推定された。中州菊屋島では、カワザンショウ *Assimineea japonicus* と *A. parasitologica* が生息していた。アシ原ではカワザンショウが優先していた。ムシヤドリカワザンショウはアシ原境界の砂地、枯れたアシの茎に比較的多く生息していた。カワザンショウのセルカリア寄生率は7月10.5% 8月10.0% 11月 2.2%で、ムシヤドリカワザンショウは0.8%以下であった。大平肺吸虫のセルカリアは検出できなかった。これらの調査結果を宮本(1961)の50年前の調査と比較した。

Paragonimus ohirai M. in the basin of Maruyama River, Hyogo Prefecture
HIROSHI YAMANISHI
Kobe Gakuin Women's College, Kobe, Japan